

住田昌二 著

現代日本ハウジング グ 史

—1914～2006—

A5版 480頁 ミネルヴァ書房

◆日本における百年の住まいを検証
わが国における〈ハウジング・システム〉
の生
成から発展、成熟から瓦解に至る過程を描
出し
た住宅社会史。

序 章 現代日本ハウジング史の立論

- 1 テーマと時期区分
- 2 ハウジング・システムの組成
- 3 工業化社会とマスハウジングの展開
- 4 ポスト工業化社会とハウジングシステムの転回
- 5 本著の構成

1 章 第一次世界大戦期における住宅政策の誕生

- 1 欧州におけるハウジング概念の誕生
- 2 わが国における住宅問題の顕在化
- 3 住宅政策の登場
- 4 関一のハウジング思想

2 章 戦間期におけるモデルハウジングの展開

- 1 関東大震災の復興事業
- 2 同潤会のアパートメント供給事業
- 3 不良住宅地区改良事業の展開
- 4 「中流住宅」をめぐる住宅改革
- 5 郊外住宅地の展開

3 章 総力戦とマスハウジングの生成

- 1 戦時体制と住宅問題の顕在化
- 2 総力戦下の住宅政策と住宅市場統制
- 3 総力戦下における住宅営団の事業展開
- 4 西山夕三とマスハウジング理路運の創始

4 章 応急復興のハウジング

- 1 焦土のなかの住まい
- 2 占領下における応急住宅政策の転回
- 3 恒久住宅政策への足掛かり
- 4 集合住宅団地像の生成

5 章 高度経済成長とマスハウジングの黄金期

- 1 大都市圏への人口集中と居住地階層構成
- 2 マスハウジング・システムの生成と展開
- 3 モダンリビングとLDK型住宅の形成過程
- 4 ニュータウン計画の光と影

6 章 1970年代におけるマスハウジングの軌道修正

- 1 工業化社会からポスト工業化社会へ
- 2 「住宅建設計画」と住宅基準
- 3 住宅供給と需要者参加
- 4 居住環境整備事業の展開
- 5 自治体住宅政策の生成

7 章 1980年代における持家社会の完成

- 1 経済大国化と持家社会化
- 2 プレハブ住宅の隆盛とパッケージ・サバーブ
- 3 マンションの商品性のもとで
- 4 住宅と住文化の地方性
- 5 参加と共生のハウジング
- 6 HOPE計画から住宅マスタープランへ
- 7 オープンビルディング思想の展開

8 章 世紀末におけるマスハウジングの瓦解

- 1 住宅バブルの崩壊と阪神・淡路大震災
- 2 家族構造と住居状態の大変化
- 3 住宅政策の「55年体制」の終焉

終章 ハウジング・システムの行方

- 1 マスハウジングの問題性
- 2 人口縮減時代におけるマスハウジングの方向転換
- 3 マルチハウジングへの道

現代ハウジング史年表（1914－2006年）

あとがき——ハウジング研究をふり返って

人名索引

事項索引